

旅してみよう「おもろい」神社仏閣 その6

愛知県の「おもろい! (大阪弁)」神社仏閣、第6回です。コロナ禍で遠出できないため、今回は歯学・薬学図書館情報センターのある楠元キャンパスのお隣、千種区城山町にある「城山八幡宮ⁱ」を紹介します。



城山八幡宮

末森城跡に鎮座する「城山八幡宮」

城山八幡宮は、織田信長の父織田信秀が天文17(1548)年に築城した「末森城」の跡地に鎮座しています。千種区の東南部51町を氏子区域として約52,000人の氏子を要し、地域に親しまれる神社です。



アマビエみくじ

「城山八幡宮」の縁起

末森(末盛)村の氏神として祭られていた「八幡社」は、もとは城山の北東、旧田代町字楠(現在の千種区春里町)にありました。その創建年代は定かではありませんが、『尾張志』に永禄年中修造の記録ⁱⁱがあるので、その頃までには成立していたようです。

末森城内には、信長の実弟信勝(信行とも)が天文22(1553)年に勧請した「白山社ⁱⁱⁱ」がありました。稲生の戦いで信勝が信長に敗れ、末森城は廃城となりますが、白山社はその後も村人により存続し、祭祀が続けられていました。

明治41(1908)年に、末森村にあった浅間社、山神社、一ノ御前社、白山社が「八幡社」へ合祀され、昭和11(1936)年に現在の社殿へと遷座します。昭和34(1959)年に、今の「城山八幡宮」へ改称しました。

祭神は、おうじんてんのう 應神天皇、ちゅうあいてんのう 仲哀天皇、じんぐうこうごう 神功皇后の八幡三神と、このはなさくやひめのみこと 木花開耶媛命、おおやまつみのかみ 大山祇神、くくりひめのみこと 菊理媛命、いざなまのみこと 伊邪那岐命、いざなみのみこと 伊邪那美命。地域の神様を合祀したため、八幡宮ですがいろいろな神様がいらっしゃいます。

八幡宮東側の鳥居から参道階段を上がっていくと、楠元キャンパスが眼下に見えますヨ。



参道階段から楠元キャンパスを望む



欄干下の空堀跡

みどころ1 ～空堀跡～

末森城跡の主要部は現在、城山八幡宮の境内となっているため、いろいろなところで空堀跡が見学できます。

近世に尾張藩によって「愛知郡末森村古城絵図^{iv}」が作成されているので、その絵図と現状を見比べながら歩くのも楽しいかもしれません。



愛知郡末森村古城絵図(蓬左文庫蔵)

<裏に続く>

みどころ2 ～^{れんりぼく}連理木～

本殿裏手にはアベマキの巨樹があります。この樹は地上約3mのところから二幹に分かれて6mのところでは結合、その上は再び分かれるという“^{れんりぼく}連理木”で、夫婦円満・縁結びの御神木として信仰されています。千種区今池の高牟神社“恋の水”、北区山田の山田天満宮（御嶽神社）“よりそい石”と共に、恋の三社参りの一つとして数えられ、有名です。恋愛運氣アップにお参りするといいかもかもしれませんね！



連理木（養生中）



赤石から桃取石を望む

みどころ3 ～桃取石～

本殿横の桃取石も、恋占いのスポットです。桃取石（青石）から赤石まで、目を閉じ進み、無事たどり着くことができれば思いが叶い、またカップルは「男性は青石」、「女性は赤石」から、目を開けずに同時にゆっくり進んで、一度目で無事相手に触れることができれば、二人の願いは成就するのだそう。

みどころ4 ～昭和塾堂～

末森城二の丸跡付近にある「昭和塾堂」は、昭和3（1928）年に愛知県が青年の訓育施設として建設した建物です。鉄筋コンクリート造2階建、塔部分が4階建で、上から見ると「人」の字に見え、中には600人収容の講堂・神殿・教室・食堂・図書館・寝室・浴室・貴賓室などがありました。

昭和45（1970）～平成29（2017）年まで、愛知学院大学大学院歯学研究棟として貸与されていたので、先輩方の内には中に入ったことがある方もいらっしゃるかもしれません。しかし残念ながら、現在見学はできません。

昭和塾堂



コロナが収束せず、なかなか遠くへはいけませんが、城山八幡宮は裏山って感じに気軽に行けますので、気が向いたら参詣してみてくださいね。みどころでは紹介しませんでした。御朱印・御城印もいろいろ授与されていて楽しいです。境内からは遠くまで見渡せるので、気分転換に登るのもいいですよ！（にわか名古屋人・M）

i 城山八幡宮 (<http://www.shiroyama.or.jp/>) 名古屋市千種区城山町 2-88

ii 尾張志「八幡社 末森村にあり應神天皇を祭る當村の本居神とす永禄年中に天野伊豆守重次修造すといへり社人を松永東太夫と云」の記述。出典は iii の項に同じ。永禄年間は 1558～1570 年です。

iii 尾張徇行記には「府志曰、白山祠在末森村、永禄年中天野伊豆守重次建之 八幡祠在同邑祢氏神 浅間祠一宮祠俱在同村」とある。（樋口好古『尾張徇行記』第2巻（愛知郡之部）、p52 愛知県郷土資料刊行会、1976.3）尾張志では「白山ノ社 同村八幡社より末申の方古城址の北に屬あり菊理媛命を祭る當社創建の願主は當城主織田勘十郎後に武藏守信行といふ信勝にて天文二十二年癸丑五月三日に勸請あり此處の八幡ノ社東永政陳か家に當社御正體の古臺座一牧あり其裏書に勸請之年月日及執事の姓名等くはしく見えたる文句を古城部に書せり併せ見るへし」とある。（深田正韶 等編[他]『尾張志. 5 愛知郡』11 コマ目、博文社、明 31.3）

iv 城山八幡宮内で、この絵図を利用した御城印が授与されているので、それを入手するといいかも。

v 城山八幡宮サイト (<http://www.shiroyama.or.jp/renriboku.htm>) によると、6月中旬～10月中旬までは、害虫保護のためのネットがあるので、「連理」の状態はよく見えません。ご注意ください。